

県育成イチゴ品種「やよいひめ」における ミヤコカブリダニによるナミハダニの生物的防除

研究のねらい

施設栽培イチゴの害虫であるハダニ類に対する天敵として、ミヤコカブリダニ（写真1）が知られています。しかし、本県育成イチゴ品種「やよいひめ」における天敵利用の防除効果については検討されていませんでした。

そこで、「やよいひめ」促成栽培圃場においてミヤコカブリダニの防除効果を実証し、薬剤散布削減効果を検証しました。

技術の特徴

「やよいひめ」促成栽培圃場において、ミヤコカブリダニを放飼し、以下の防除体系を実施することにより少ない薬剤散布回数でナミハダニを抑制することができます（図・写真2）。

1 防除体系

- (1) ミヤコカブリダニ放飼2週間前～直前までにミヤコカブリダニに影響のない殺ダニ剤を散布し、ハダニ密度を低くします。
- (2) 11月中下旬にミヤコカブリダニ剤（商品名：スパイカルE X）を100～300ml/10a（約2000～6000頭）放飼します。

- (3) ミヤコカブリダニ放飼後にナミハダニの密度が高まった場合（10頭/3複葉・株程度）は、ミヤコカブリダニに影響の少ない殺ダニ剤で防除を行います。

2 利用上の留意点

ミヤコカブリダニを導入する際には、製剤に同梱されている放飼方法および農薬影響表をよく確認して使用してください。

今後の取り組み

アザミウマ類を中心とした総合的防除について検討を行い、更なる省力化と環境保全型技術の確立に取り組んでいきます。

（執筆者：高橋 まさみ）

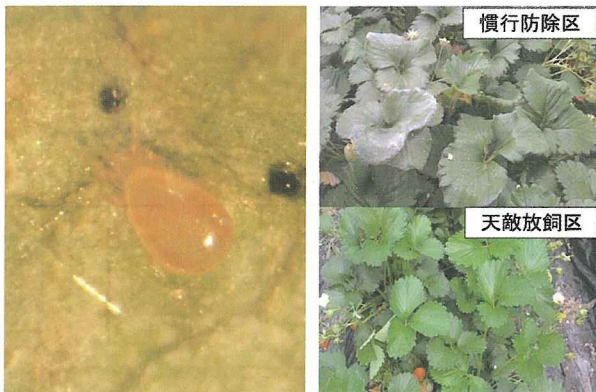
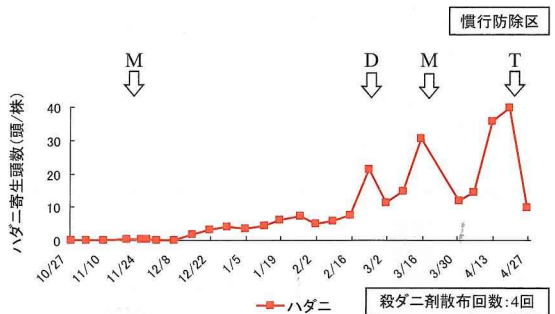
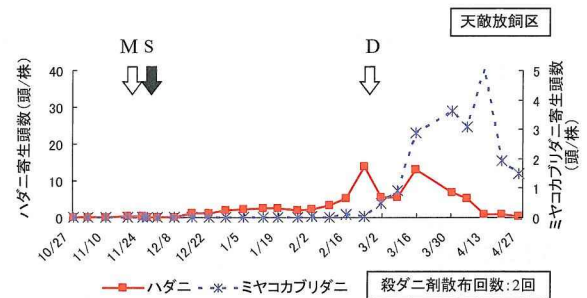


写真1 ミヤコカブリダニ

写真2 現地圃場の様子



注) 図中の矢印は薬剤散布を、英字は使用薬剤を示します。
S: ミヤコカブリダニ M: マイトコーネフロアブル
D: ダニサラバフロアブル T: スターマイトフロアブル

図 ミヤコカブリダニによるナミハダニ防除効果（場内試験結果）